

東京都公立学校情緒障害教育研究会

都情研 入門研修

～目指す方向を見失わないために～
(前編)

令和3年度 企画運営本部

1

入門研修の内容

1. 「情緒障害」って「都情研」ってなに？
2. 「障害」とは
3. 特別支援教育の目指す方向とは
4. 実態把握と見取り・見立て
5. 行動観察と指導記録、成育歴、諸検査
6. 特別支援教室（通級による指導）の役割
7. 発達障害の理解
8. 指導内容と指導方法
9. 学習指導案とケースレポートの書き方
10. 通級による指導の実際（事例から学ぶ）

2

1. 「情緒障害」って 「都情研」って、なに？

- ・東京都公立学校情緒障害教育研究会
- ・昭和42年に誕生した任意の研究団体
- ・区市町村からの分担金（幼小中1校900円）
- ・昔は、自閉症が情緒障害だと思われていた
- ・情緒障害 → 自閉症・ADHD・LD等の器質性の発達障害、心因性の情緒不安定
- ・心因性の情緒障害（緘黙等、不登校は？）
- ・自閉症・情緒障害学級（固定）
- ・特別支援教室（通級による指導）

3

2. 「障害」とは

- ・「障碍」「障がい」表記の議論
- ・「病気」ではありません！
「治る？」「治りません。」
- ・「障害者権利条約」「障害者基本法」
「障害者総合支援法」「障害者差別
解消法」「合理的配慮」「ソーシャル
インクルージョン」

4

「障害」をどう捉えるか

1980年 ICIDH 2001年 ICF（国際生活機能分類）

機能障害（Impairment）



能力低下（Disability）

活動制限

ここへのアプローチが教育の役割



社会的不利（Handicap）

参加制約

5

3. 特別支援教育の目指す方向とは

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。

<文部科学省初等中等教育局長通知「特別支援教育の推進について」
(平成19年4月1日) より抜粋>

6

学習指導要領「自立活動」では

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に**改善・克服**するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達¹の基盤を培う。

<文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」第7章
自立活動 第1 目標 より>

7

目指すは「改善」「克服」

障害による学習上又は生活上の困難の

改善 … できることを増やすこと

克服 … 自己理解

8

4. 実態把握と見取り・見立て

- 指導や支援は「**見取り（見立て）**」から始まる
- 見取り（見立て）とは、
児童・生徒の言動を的確に把握し、「**その意味や原因を考える**」こと
- 目に見える児童・生徒の状態（実態）を把握するだけではない。
- その状態には「**理由**」が必ずある。
- その状態に至った「**原因**」が必ずある。
- 見取り（見立て）が、**児童・生徒理解の入り口**である。

9

児童・生徒の状態に影響する要素

- 健康や身体的なこと
視力や聴力、身体疾患、病気、感覚過敏、アレルギー
- 心理的なこと
不安、緊張、嫌な体験、喧嘩、叱責、いじめ、抑うつ
- 家庭や学校、環境的なこと
保護者の養育能力、忙しさ、虐待、家族関係、成育歴
片付いていない、落ち着かないクラス、無秩序
- 発達に関すること
知的発達の遅れ・偏り、社会性、運動機能

10

どのような時に起きているか

- 課題となる行動が起きる前後の状況やきっかけ
- 頻度、持続時間
- 時期（授業時間、業間、一日、一週間、一年間、季節との関係）
- 人がいるときといないときの違い
- 対象の相手は決まっているのか、友達、教員
- 切り替えがどのように行われているか
- 切り替えまでの時間

11

5. 行動観察と指導記録、成育歴、諸検査

- 行動観察で大事なこと
- 主観で判断せず、客観的に行動を見る。
- 推測や感想を交えないで、事実をそのまま受け取る。
- ×「嬉しそう」→ ○「笑っている」
- ×「いつも一人だから、友だちが欲しいに違いない」
- ×「何度も言っているのに、分かっているはず」

12

行動観察の観点

- 学習態勢
- 基本的行動様式
- 言語・コミュニケーション
- 集団参加・社会的行動（対人関係）
- 運動能力（感覚知覚）
- 認知・概念形成
- 自己理解・行動調整（多動・衝動・不注意）
- 基礎学力
- 興味関心・こだわり
- かんしゃく、パニック、チック、不登校等

13

指導内容	指導目標
生活動作 1. 生活動作の学習 2. 生活動作の練習 3. 生活動作の活用	1. 生活動作の学習が出来るようになる 2. 生活動作の練習が出来るようになる 3. 生活動作の活用が出来るようになる
言語 1. 言葉の理解 2. 言葉の活用	1. 言葉の理解が出来るようになる 2. 言葉の活用が出来るようになる
コミュニケーション 1. コミュニケーションの学習 2. コミュニケーションの練習 3. コミュニケーションの活用	1. コミュニケーションの学習が出来るようになる 2. コミュニケーションの練習が出来るようになる 3. コミュニケーションの活用が出来るようになる
運動 1. 運動の学習 2. 運動の練習 3. 運動の活用	1. 運動の学習が出来るようになる 2. 運動の練習が出来るようになる 3. 運動の活用が出来るようになる
認知 1. 認知の学習 2. 認知の練習 3. 認知の活用	1. 認知の学習が出来るようになる 2. 認知の練習が出来るようになる 3. 認知の活用が出来るようになる
社会性 1. 社会性の学習 2. 社会性の練習 3. 社会性の活用	1. 社会性の学習が出来るようになる 2. 社会性の練習が出来るようになる 3. 社会性の活用が出来るようになる
生活技能 1. 生活技能の学習 2. 生活技能の練習 3. 生活技能の活用	1. 生活技能の学習が出来るようになる 2. 生活技能の練習が出来るようになる 3. 生活技能の活用が出来るようになる

14

指導記録を取る

- 教室の資料として（指導者の個人資料ではない、数年後も使用）
- どんな場面か…個別・小集団、説明を聞く、準備、作業中、後片付け、休憩中
- どんな課題で…具体的内容
- どうだったか…児童の様子（客観的事実（言動、取り組み方、指導者の働きかけへの反応、他児とのかかわり等）
- TTでの指導では、記録者を決めて、時系列で逐次記録する

15

成育歴（Life History）

- 就学相談資料
- 初回保護者面談（インテーク、入室時）
- 母子手帳には何が書いてあるのか
- 胎生期、出生時、乳幼児期、学童期
- 発達歴、教育歴、相談・治療歴、家族歴
- 発達のマイルストーン
 笑う2M、定顎3M、親の動きを目で追う4M、寝返り6M、シャコン7M、歯が生える7M、座る7M、這う9M、つかまり立ち9M、人見知り9M、動作の模倣10M、つたい歩き11M、立つ12M、始語12M、歩く14M、指さし18M
- 今は、何歳何ヶ月？ 小学生は月齢で考える

16

諸検査について

- かつては、通級担任が実施し活用するのが当然だった。どこの通級にも、検査用具があった。
- 知能検査…WISC-IV（5：0～16：11、幼児WPPSI-III）、田中ビネーV（2：0～成人）
- 心理教育アセスメントバッテリー…KABC-II（2：6～18：11）
- その他
 DTVPフロスティック視知覚発達検査（4：0～7：11）、DN-CAS認知評価システム（5：0～17：11）、PVT-R絵画・語彙発達検査（3：0～12：3）等
- 数値やレポートは、本当に信用して良いのか！

17

WISC-IV（ウイスク・フォー）

- 経験知も知能の一部と考える最もよく使われる総合的な知能検査全検査、ウェクスラー系
- FSIQと、四つの指標で個人内差を見る
- 言語理解（VCI）、知覚推理（PRI）、WorkingMemory（WMI）、処理速度（PSI）
- 偏差IQ
- 1標準偏差15（85未満）はかなり低い数値、2標準偏差（70未満）知的障害の診断に
- 偏り、個人内差に注目し、指導に活かす
- できれば、下位検査の評価点まで見たい！

18

6. 特別支援教室（通級による指導）の役割

- 「通級による指導」を行う場としての「通級指導教室」のうちの一部を、東京都では「特別支援教室」と呼称している。
- 個に応じて、年間280単位時間までの中で必要な時数、「特別の指導」を行う。
- 必要な時数とは、どのくらいでしょう？
- 児童・生徒の生活リズムを配慮し、障害特性に合った指導時間とは？
- この教育の目的に立ち返って考えよう！

19

特別支援教室の役割はなんだろう

- すぐに不安定になる子どものための
リラックスルームではない
 - 教室ですぐトラブルを起こす子どもの
預かりどころではない
 - 勉強が遅れている子どものための
塾ではない
 - 基本的な生活習慣が身につけていない子どもの
しつけ請負どころではない
- *担任や保護者がすべきことの
肩代わり役ではない

※伊藤久美先生のスライドより引用

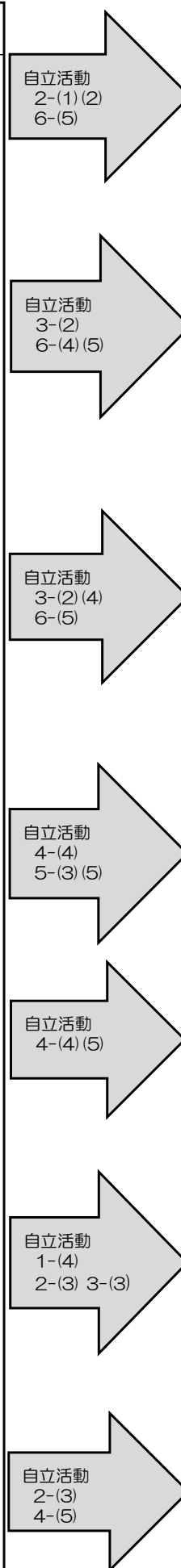
20

特別支援教室の指導内容と目標

指導項目	児童がかかえる困難
学習態勢・基本的行動様式	①対人認知（距離感、関係の理解）、状況、雰囲気などの把握、役割の理解、ルール理解 ②衝動性のコントロール、プランニング・モニタリングの調整、注意と記憶、注意の配分、保続（切り替え、視点思考の転換）、イマジネーション・同一性保持・評価への感受性 ③シングルフォーカス、シングル（モノ）トラック ④ジョイントアテンション、言語・コミュニケーション
言語・コミュニケーション	①④心の理論、ジョイントテンション、アイコンタクト、表情、身振り、指差しの理解と使用 状況に合った声の大きさ・高さ 字義通りの理解（文脈からの理解） 語用の意味、会話のキャッチボール、暗黙の了解 ②注意と記憶、選択的注意・社会的注意保続
集団参加・社会的行動	①④状況・雰囲気の把握、集団内での位置、役割の理解 ルールの理解、暗黙の了解、心の理論、ジョイントアテンション、イマジネーション、語用と意味 ②衝動性のコントロール、プランニング・モニタリングの調整、注意と記憶、保続（切り替え、視点思考の転換）、イマジネーション・同一性保持、評価への感受性 ③シングルフォーカス、シングル（モノ）トラック ⑤視覚刺激、聴覚刺激への過敏
運動能力	⑤感覚統合（視覚、触覚、固有覚、前庭覚等） 身体意識…身体像（ボディイメージ） 身体図式（ボディシエマ）ラテラルリティ、正中線交叉、バランス等 身体概念（ボディコンセプト） 微細運動、粗大運動、協応運動、巧緻性 ②注意の振り分け ①状況の把握
認知・概念形成	③シングルフォーカス、シングル（モノ）トラック 空間認知 情報の統合 ①社会的状況の認知 ⑤感覚知覚
自己理解・行動調整	①状況・雰囲気の把握 共感及びそれを代償する情報処理 自分の役割の理解 ②衝動性のコントロール プランニング・モニタリングの調整 評価への感受性、保続（切り替え、視点思考の転換）、イマジネーション・同一性保持 ⑥感情のコントロール、メタ認知
将来を見通した基礎学力	⑥自己理解 行動調整 基礎学力

①社会的認知 ②実行機能障害 ③弱い中枢性統合 ④コミュニケーション ⑤感覚・知覚 ⑥総体的知能 その他

指導の工夫と配慮すべき点
小集団指導 チームアプローチ 環境の構造化 言葉の構造化 視覚の手がかりの使用 肯定的即時評価 具体的な方策の提案



主な指導内容（授業場面→学校内→日常生活で と広がりを考えながら）	
<input type="checkbox"/> 時刻になったら活動をやめて着席する <input type="checkbox"/> 教師や友達に注目する 注目し続ける <input type="checkbox"/> 教師の板書や指さしたところに注目する <input type="checkbox"/> 他者の視線に気付いて同じところを見る <input type="checkbox"/> 教師や友達の話最後まで聞く <input type="checkbox"/> 指示に従って行動する <input type="checkbox"/> 複数の指示を覚えて、それを行う	<input type="checkbox"/> 自分のやるべきことが分かる <input type="checkbox"/> 目の前のものをすぐに触らない <input type="checkbox"/> 順番を守る 黙って取り組む <input type="checkbox"/> 助言や手助けを受け入れる <input type="checkbox"/> やり直しや再挑戦ができる <input type="checkbox"/> 制止や禁止を聞き入れて止める <input type="checkbox"/> 丸等の意味が分かって意欲的に取り組む
<input type="checkbox"/> 相手に分かるように、自分の考えを話す <input type="checkbox"/> できごとの順番を思い出して話す。報告する <input type="checkbox"/> 伝えなければ、分からないことに気づく <input type="checkbox"/> 同じ言葉でも、使う場面が違うと異なる意味合いになることに気付く <input type="checkbox"/> 比喩、例え、慣用句の意味や使い方が分かる <input type="checkbox"/> 自分に向けられた視線の意味が分かる <input type="checkbox"/> 比喩や例え、慣用句の意味や使い方 <input type="checkbox"/> 状況や文脈から言葉の意味を理解する <input type="checkbox"/> 相手の話に沿った内容で自分の考えを言える	<input type="checkbox"/> 言葉だけでなく、表情や視線、仕草を正しく使って相手に伝えようとする <input type="checkbox"/> 相手の立場に立って、言いたいことを理解しようしたり、想像しようしたりする。 <input type="checkbox"/> 相手の視線に気づき、その先がどこに向いているのか分かる <input type="checkbox"/> 相手に話しかけるときの言葉、タイミング、話題を変えるときの言い方を知る <input type="checkbox"/> 敬語を知り、場面や相手に合わせて使ってみる（フォーマル、年上、初対面等）
<input type="checkbox"/> 予定や時間割が分かる <input type="checkbox"/> 友達の様子から判断して分かる <input type="checkbox"/> 集団を意識し、遅れないように行動する <input type="checkbox"/> 集団から上手に抜ける方法を知る <input type="checkbox"/> 予定を意識し、自分のやっていたことを切り替えながら集団に参加していく <input type="checkbox"/> 作業や物事の手順や段取りを考える <input type="checkbox"/> やることの優先順位を考える <input type="checkbox"/> 協力することの意味や方法を知り、やってみようとする <input type="checkbox"/> 集団内の自分の立場や役割を理解して行動する	<input type="checkbox"/> 報告、連絡、相談で成功することを知る <input type="checkbox"/> ルールを理解し、守って活動に参加する <input type="checkbox"/> 結果を受け入れ、目標や方法を変更する <input type="checkbox"/> 自分のめあてや目標を設定して取り組む <input type="checkbox"/> 他者には自分とは違う思いや考えがあることを知る <input type="checkbox"/> 自分の言動が他者にどのような影響を及ぼしたのか、どう見られていたのかを知る <input type="checkbox"/> その場面での暗黙の了解は何か気付く <input type="checkbox"/> 注意や批判はしない方がうまく行くことに気づく
<input type="checkbox"/> モデルを見て同じように体を動かす <input type="checkbox"/> 見ながら（聞きながら）動く。 <input type="checkbox"/> 必要なところに力を入れたり、脱力したりする <input type="checkbox"/> 自分の体の動きや姿勢をイメージする <input type="checkbox"/> 回転、逆さ、バランスなどを感じる運動をする <input type="checkbox"/> 見ながら（聞きながら）動作する	<input type="checkbox"/> 連続する一連の動きを滑らかに行う <input type="checkbox"/> ある動きから別の動きに切り替える <input type="checkbox"/> 複数箇所を同時に動かす協応動作をスムーズに行う <input type="checkbox"/> 学習や作業に必要な道具を適切に使う <input type="checkbox"/> 相手の動きに合わせて動作する
<input type="checkbox"/> 見た事柄、読んだ内容を正しく理解し、言葉や文字、絵、図、動作等で再現する <input type="checkbox"/> 複数の情報を取りまとめて総合的に理解する <input type="checkbox"/> 全体を見て、どんな部分から成り立っているのかを理解する <input type="checkbox"/> 物事を推理したり予測したり関連付けたりする <input type="checkbox"/> 起こったできごとの因果関係に気づく	<input type="checkbox"/> 起こりそうな事柄を予測して行動を考える <input type="checkbox"/> 量や長さが同じになるように調整する <input type="checkbox"/> 位置関係が分かる 時間経過に気づく <input type="checkbox"/> 自分の言動が合っているか、他人の様子を参照する <input type="checkbox"/> 問題解決に役立つ手がかり（社会的キュー）に気づく
<input type="checkbox"/> 自分の認知や行動の特性を理解し、うまくいく方策や代替えとなる方法を知る <input type="checkbox"/> 落ち着きがなかったり、衝動的だったり、不注意だったりする自分に気づき、コントロールする方法があることを知る <input type="checkbox"/> 他者につられて不適切な言動を行ってしまう自分に気づき、行動修正できる <input type="checkbox"/> 思い通りにならないことへの不平や不満、他者への批判などは、問題解決に至らないことに気づき、視点を変えて考えてみる	<input type="checkbox"/> うまくいかないときには、別な方法があるかどうか相談し、やってみる <input type="checkbox"/> 予定の変更を受け入れる <input type="checkbox"/> パニックや癇癢を起こしたときのクールダウンの方法がわかる <input type="checkbox"/> 起こりそうなことを予測し、前もっていくつかの解決の方法を相談しておく <input type="checkbox"/> いろいろな苦手なことがあっても、相談したり助言を受け入れたりすることでうまくいくことを知る
<input type="checkbox"/> 学年と総体的な発達を考慮して <input type="checkbox"/> 数や図形をイメージし操作する課題や大きさ、量、長さ、広さなどを測定したり比較したりする課題に取り組む <input type="checkbox"/> 文章や図の重要なところに着目して理解したり答えたりする課題に取り組む	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で必要な知識や常識に関わる問題に取り組む <input type="checkbox"/> 聞いたことを書き留めたり、大事なことをまとめたりする <input type="checkbox"/> 板書をノートに書き写す <input type="checkbox"/> 時刻や時間、予算やおつり等の計算

自己肯定感・有用感の育成、適切な進路決定、社会生活適応、自己実現に向けて

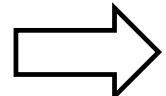
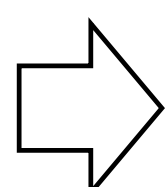
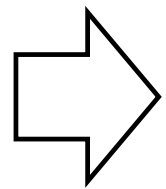
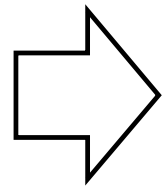
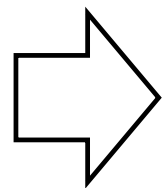
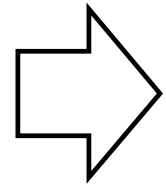
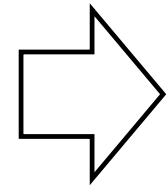
*参考 水野薫編『実践に学ぶ特別支援教育 ASD児を中心とした情緒障害教育の成果と課題、そしてこれからの姿』（本の種出版、2017）

特別支援教室の指導目標一覧（長期目標）

特別支援教室の教育課程第2表「5 主な指導内容」について（参考）

*児童の実態に応じて、次の9項目のうち、3項目を選定して記述する。

ID	主な指導内容
SN_01	注視、傾聴、着席、指示理解等、学習態勢の確立に関する内容
SN_02	活動への取り組み方や持ち物管理等の基本的行動様式に関する内容
SN_03	意思の伝達や聞き取り、対人理解等の言語・コミュニケーションに関する内容
SN_04	集団への意識や集団参加、社会的行動に関する内容
SN_05	感覚統合やボディイメージを高める等、粗大運動に関する内容
SN_06	協応運動や手指の巧緻性を高めるための内容
SN_07	認知や概念形成に関する内容
SN_08	自己理解や行動調整に関する内容
SN_09	実態に応じた学習方法に関する内容



項目	ID	長期目標
基 学 習 的 態 行 動 ・ 様 式	T101	個別場面での着席、注視、傾聴、指示に従う態度、行動修正等の学習態勢の確立を図る。
	T102	個別場面での学習の流れに沿って活動したり、待ったりする等、学習の際の基本的行動様式の習得を図る。
	T103	小集団場面での着席、注視、傾聴、指示に従う態度、行動修正等の学習態勢の確立を図る。
	T104	小集団場面で、学習の流れに沿って活動したり、順番を待ったりする等、友達と共に学習する際の基本的行動様式の習得を図る。
	T105	様々な場面での学習活動において、着席、注視、傾聴、指示に従う態度、行動修正等の学習態勢の確立を図る。
	T106	様々な場面での学習態勢の確立を図ると共に、進んで学習活動に参加しようとする意欲の向上を図る。
	T107	日常生活における衣服の着脱や持ち物管理等の身辺処理、生活リズムや衛生に関する知識や技能の習得を図る。
	T108	場に応じた服装や身だしなみ、振る舞い等を知り、自ら整えたり気をつけたりする態度を養う。
	T109	一日の流れを予定表で確認したり、時計を見ながら準備したり、少し先を見通して行動する力を高める。
言 語 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	T201	理解語彙の拡大を図り、適切に使用できるようにし、簡単な日常会話の表現力向上を図る。
	T202	日常会話でよく使われる比喩や例え、慣用表現等の意味を理解し、使えるようにする。
	T203	簡単な指示や質問を理解し、指示通り行動したり、質問に答えたりできるようにする。
	T204	名前を呼ばれたら返事をし、簡単な指示や説明を最後まで聞いてから活動できるようにする。
	T205	名前を呼ばれたら返事をし、指示や説明を聞いて理解したり、質問して確かめたりできるようにする。
	T206	相手の名前を呼んで話しかけ、自分の行動を報告したり、質問に答えたりできるようにする。
	T207	相手の言葉を正確に聞き取って理解したり、自分の意思を適切に伝えたりする力を高める。
	T208	相手や状況に応じて言葉を選んで話したり、相槌を打ちながら聞いたりして、相手を意識しながら言葉のやり取りができるようにする。
	T209	自他の感情に気づかせ、相手の気持ちを考えようとする態度を養う。
	T210	相手の様子に注目し、身振りや表情等の非言語的な情報を読み取りながら、言葉の表現を工夫して伝えたり答えたりできるようにする。
	T211	相手の視線の先や自分に向けられた視線に気づき、相手の意図や感情を想像しながら会話することができる。
	T212	相手に話しかけるタイミングや言葉遣いを考え、状況に応じて適切に表現できるようにする。
	T213	相手の気持ちや意図を理解しようとする態度を養い、表現を工夫して説明したり、相手の理解を確認したりできるようにする。
	集 団 参 加 ・ 社 会 性	T301
T302		先生や友達の名前を覚え、名前を呼んで話しかけたり友達と一緒に活動したりすることができるようにする。
T303		先生や友達の活動に関心をもち、質問して理解しようとしたり真似してやってみようとしたりすることができるようにする。
T304		個別場面で学習する際に、簡単な決まりやルールを守って活動することができるようにする。
T305		集団場面で学習する際の決まりやルールを理解し、それらを守って活動することができるようにする。
T306		掲示物や表示、時計等から情報を読み取って、一日の流れや学習予定を理解して活動できるようにする。
T307		集団で学習する際の作業手順や優先順位等が分かり、予定を意識しながら活動できるようにする。
T308		友達と協力することの意味や方法が分かり、役割分担等をしながグループ活動ができるようにする。
T309		友達と協力することの意味や方法が分かり、共通の目標に向かって活動することができるようにする。
T310		先生や友達の様子を見ながら判断して行動を切り替えることができるようにする。
T311		先生や友達の真似をして学びとろうとしたり、課題解決を図ろうとしたりすることができるようにする。
T312		自分の言動や役割が、他の人や友達に及ぼす影響を知り、自分がどう見られているのか想像することができるようにする。
T313		少し先の見通しを考えながら、先生や友達に相談し、自分の行動を決めることができるようにする。
T314		状況や場面に応じた望ましい社会的スキルを習得させ、社会性の向上を図る。
運 動 能 力	T401	身体部位の名称を知るとともに、運動・動作を通し、身体像や身体図式を高める。
	T402	全身を使った運動を通し、身体意識を養うと共に、基礎的運動能力の向上を図る。
	T403	粗大運動や微細運動を通し、適切な身体像の獲得を図る。
	T404	様々な運動・操作を通し身体図式の獲得をさせ、上手に体を動かす能力や姿勢を維持する能力の向上を図る。
	T405	全身を使った運動を通し、動作模倣能力の向上を図る。
	T406	全身を使った運動を通し、協応動作や身体の動きを制御する力を高める。
	T407	指先を使った作業を通し、手指の巧緻性を高める。
	T408	指先を使った作業を通し、目と手の協応を高める。
	T409	指先を使った作業を通し、微細運動機能を高めると共に、道具の使用法の習得を図る。
認 知 ・ 概 念 形 成	T501	興味・関心に応じた課題を工夫し、認知能力全般の発達促進を図る。
	T502	興味・関心に応じた課題を工夫し、認知発達の偏りの改善を図る。
	T503	時間や空間、因果関係等の基礎概念が適切に理解できるようにする。
	T504	視覚情報を適切に理解し、文字や図形、動作等を正しく書き写したり再現したりできるようにする。
	T505	聴覚情報を適切に理解し、曲やリズム、歌や言葉等を正しく再現できるようにする。
	T506	様々な情報の中から必要な情報を選択したり、物事の優先順位を考えたりできるようにする。
	T507	既習の知識を活かしたり体験したことと結びつけたりして、先を見通しながら活動できるようにする。
	T508	認知発達の偏りに応じた課題に取り組みせ、認知能力の調和的発達を促す。
	T509	認知発達の偏りを補うための課題に取り組みせ、認知能力の調和的発達促進を図る。
	T510	認知発達の偏りに応じた支援の仕方を工夫し、学力のアンバランスの改善を図る。
	T511	認知特性に応じた学習方法の習得させ、学習意欲の向上を図る。
	T512	認知特性に応じた学習方法を習得させると共に、知識、技能等を日常生活で生かせるようにする。
自 己 理 解 ・ 行 動 調 整	T601	様々な活動を通して自分の得意なこと気づき、意欲的に取り組むことができるようにする。
	T602	様々な活動を通して自分の得意・不得意に気づき、うまくいくための手立てを取ろうとすることができるようにする。
	T603	自分の得意・不得意を理解し、得意な部分を伸ばし、苦手な部分の改善、克服しようとする態度を養う。
	T604	友達と自分の得意・不得意の違いに気づき、自己理解を深めると共に、工夫して生活しようとする態度を養う。
	T605	パニックや癇癪を起こしたときのクールダウンの仕方を知り、やってみようとする。
	T606	うまくいかないときに一旦活動を止めたり、別なやり方に切り替えたりできるようにする。
	T607	思い通りにいかないときに不平、不満を言うよりも、気持ちを切り替えて行動を自己コントロールできるようにする。
	T608	場に応じた注意集中の仕方を知り、学習活動の中でやってみようとする。
	T609	自分なりの気持ちの切り替え方を見つけ、場に応じて適切に行動をコントロールしようとする態度を養う。
	T610	先生や友達との安定した人間関係を味わせ、見通しをもち、落ち着いた学習活動ができるようにする。
	T611	小集団場面での成功体験を増やし、友達や先生からの賞賛を楽しみにしながら活動できるようにする。
	T612	学習活動の結果のみならず途中経過や努力を丁寧に評価することにより、自尊感情を高めるとともに学習意欲の向上を図る。
か し 得 た 基 礎 学 通	T701	認知発達の偏りに応じた支援の仕方を工夫し、基礎学力の向上を図る。
	T702	認知特性に応じた学習方法を探り、基礎学力の向上を図ると共に、学習意欲の向上を図る。
	T703	日常生活とのつながりや実際場面と結びつきや発達段階を考慮しながら基礎学力の向上を図る。
	T704	ハサミや定規等の学習用具の使用の仕方の習得を図るとともに、生活場面と結びつけながら基礎学力の向上を図る。